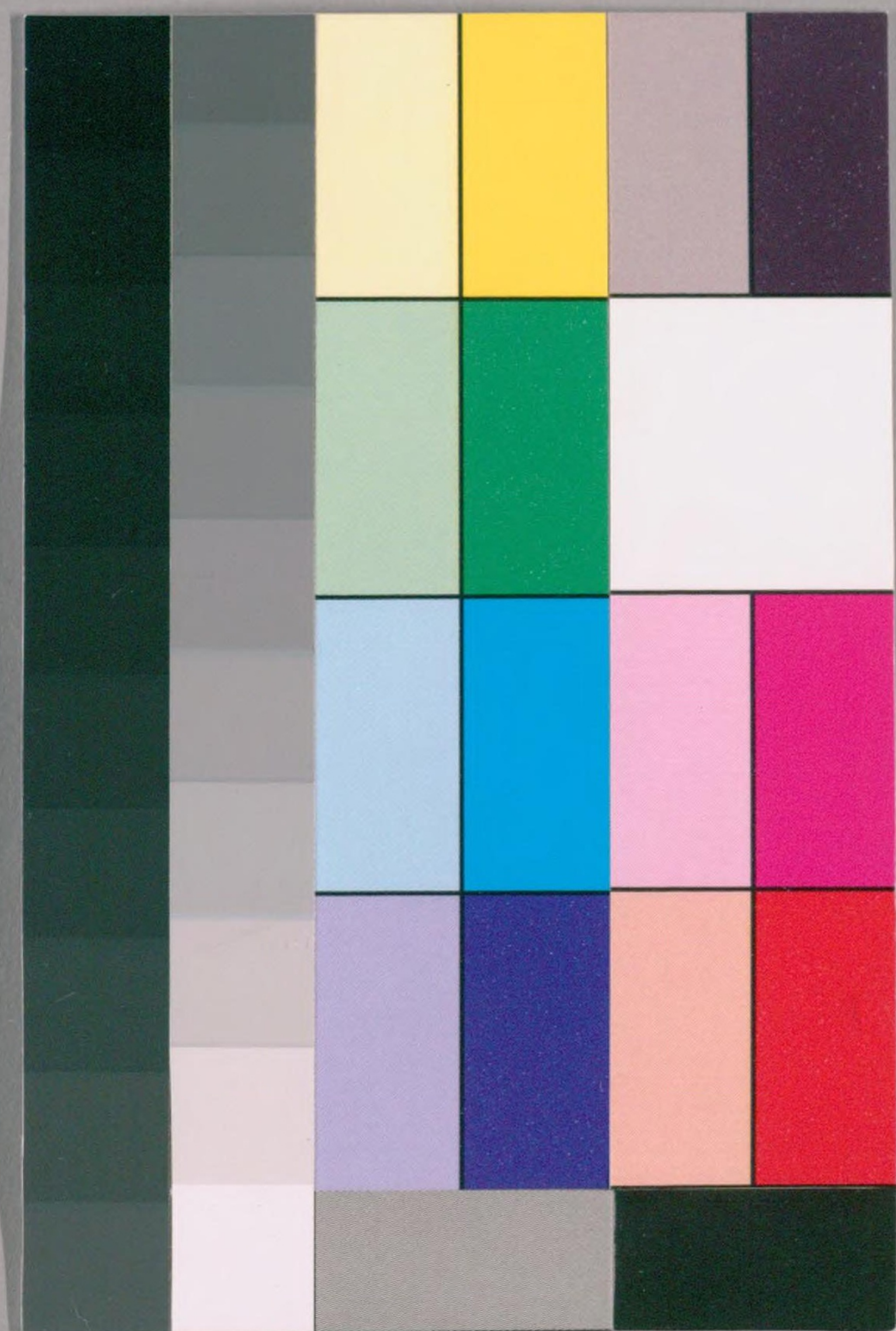


862
1

73



国立国会図書館

タイトル『満次郎漂流記』 請求記号 862-1

ガラス使用



2 Δ Z O M U I X

漂流記

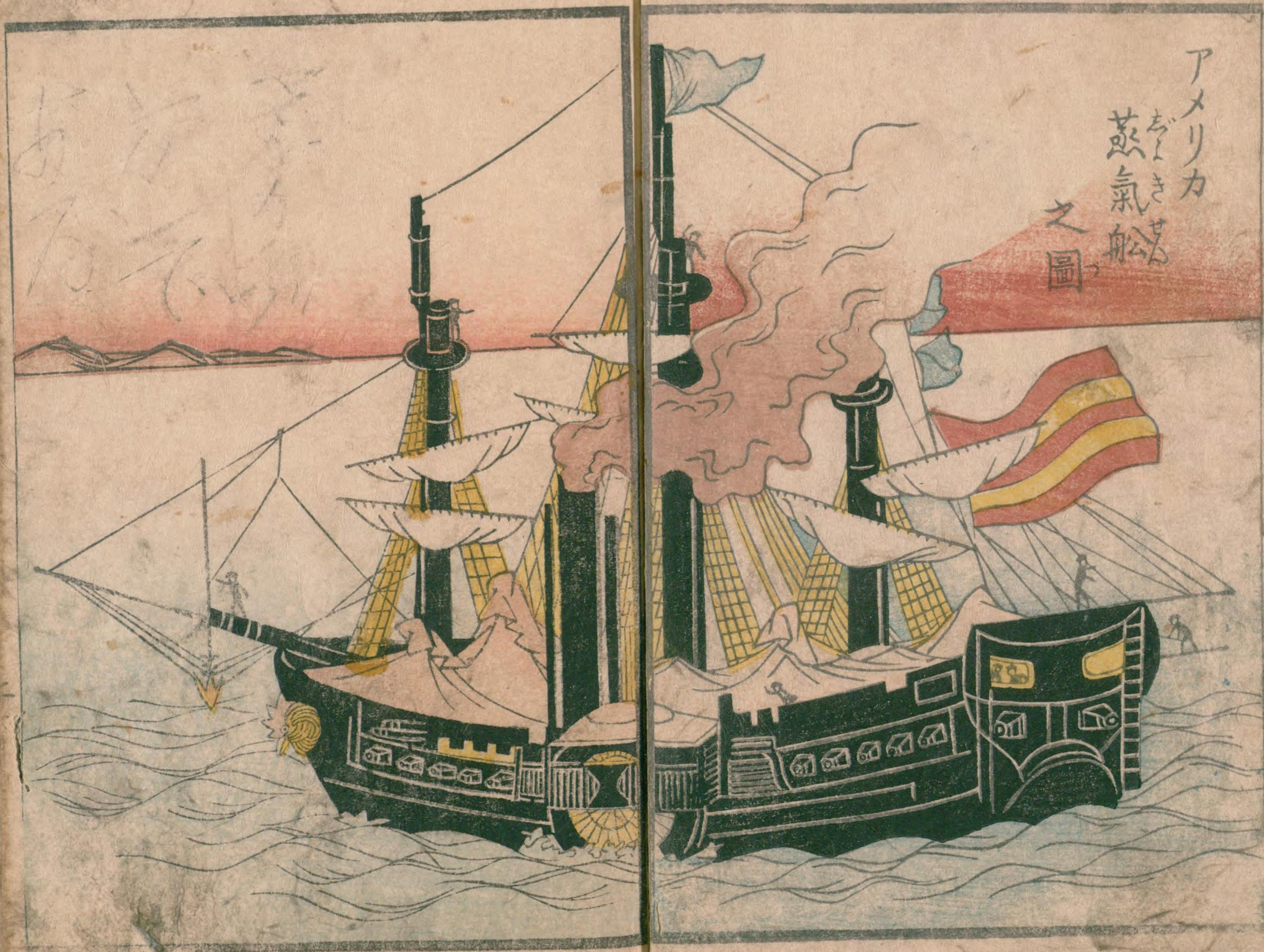
倉浪軒藏板賣

浮城屋



W. H. ...





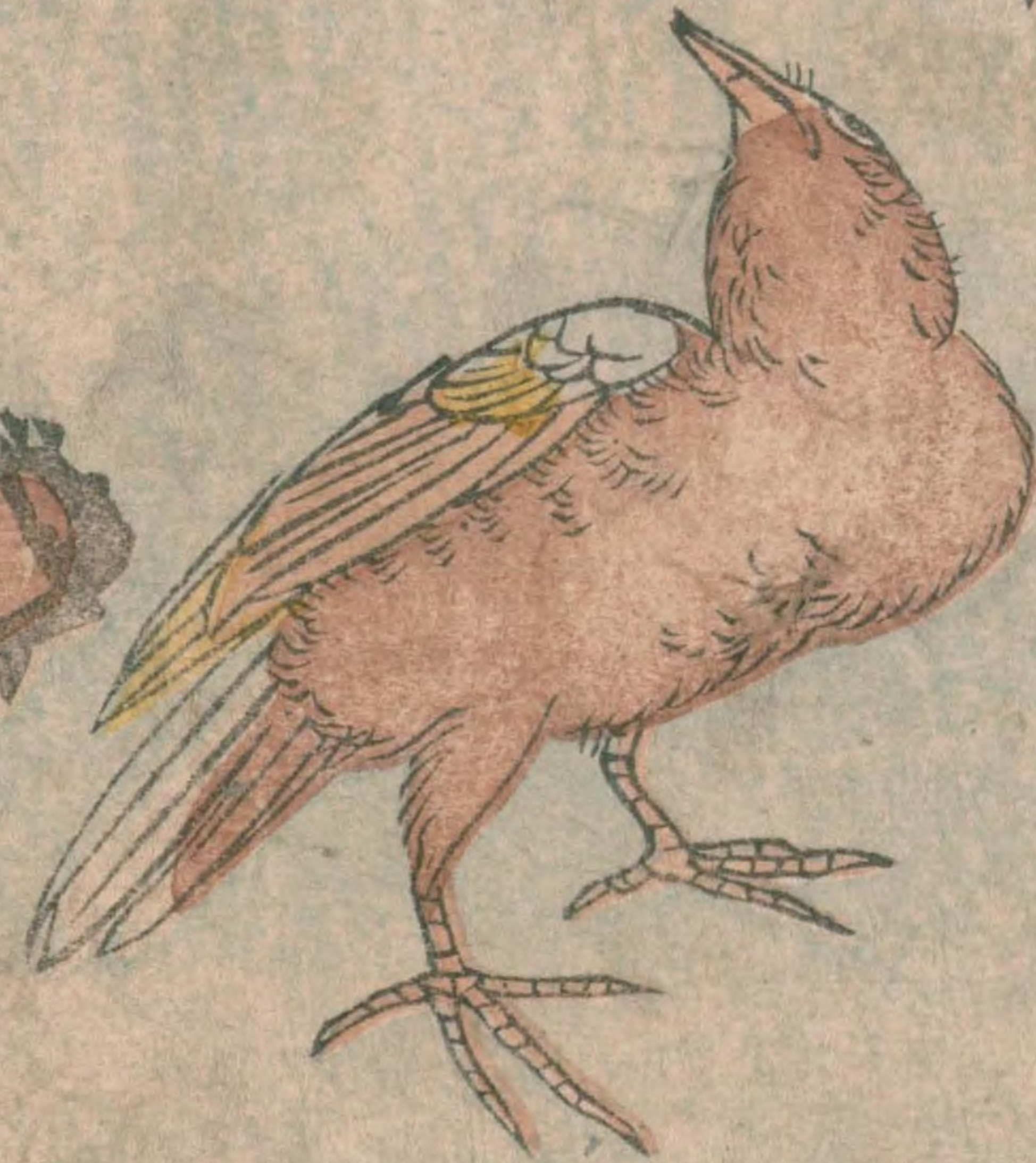
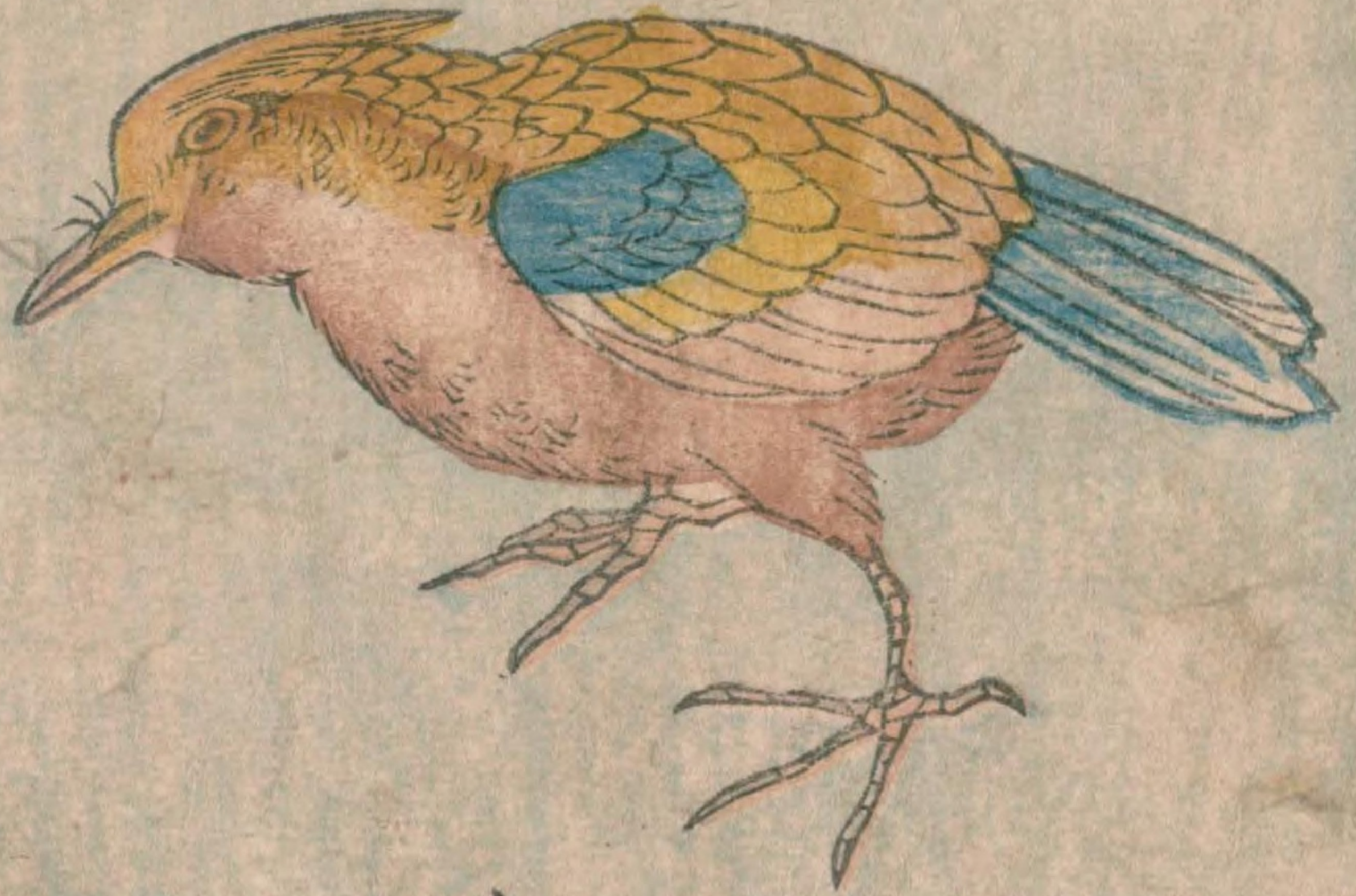
アメリカ
蒸氣船
之圖

23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

ワフ
國の
石



無人島
の



トヲクロ鳥

23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

ワフ國こくの田芋とさめ

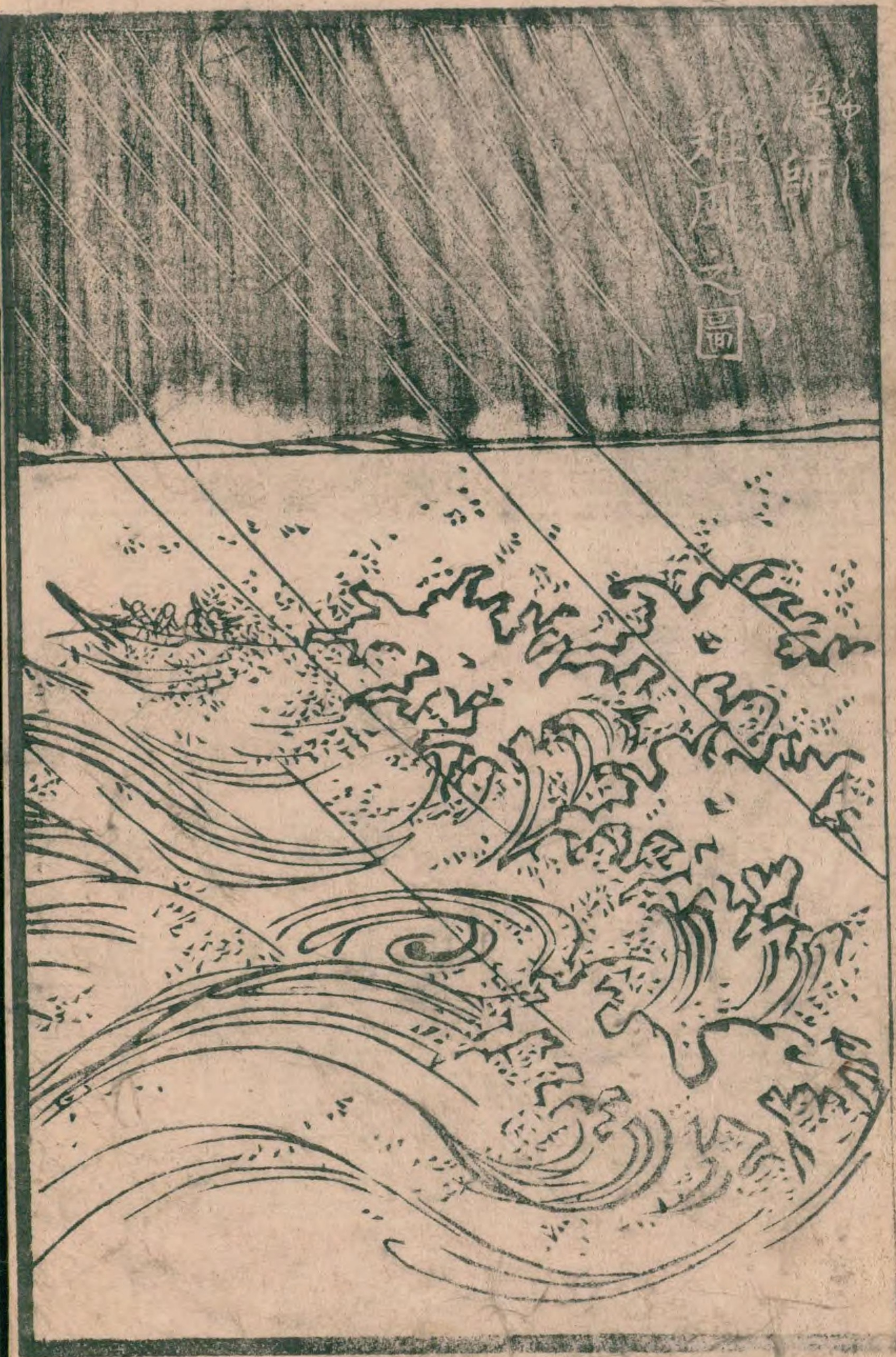


大日本土佐國澳師漂流記

肥前長崎

鈍通子記録

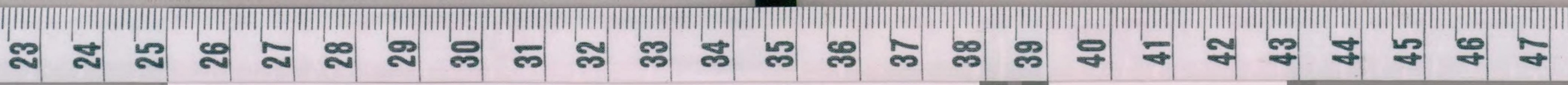
往昔何れの時ひかり時志えん所分産の国西海しほといふところありて
此のう合の澳作うわりのけりておき種たねといふ事と云儀を傳つたへたる也
いはね申ふ白葉二年終あり内月七日迄その西ふとり種を分産その日
午の所ころに也の雲西ありし所まの方より内吹來りた貴ふをけり
包ふをたむをるも又しも早く種おげぬんとをうふ内わりの地方へ
よき入たるるる口ぞその伴居已の方へ馳されぬもよもふてこふて
種へたる其内ふらちも揚りわあるひあむと揚入丁の内三丁の處
はる三丁のわも只原己の寺内と改かへとふまるを改原されぬいそとて



23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

うり成美の仲合へいとうと下しふ船二艘をりてうの海さうし清
りられごんとの大ひお娘ひそく来るゆへ海に穴のうごお娘をさる
舟のう足お随ひおうなる船ちの舟をさう舟のり祖交つ内入ハメリカ
人きく一人の口とホヲさう二人のよのき入さうあびおたを捕さして
たうどのさんせなふお異人うらうるはたる人二人を抱あげ
舟おのせ二人のよのきおのつお船のうさのつゆさなり○春
う右の大舟備つけしはれお是おのうはつらりは船長サ四十二
舟外采洞おはつてつと異國さうは舟ハメリカ船の鯨
船さう日と世界の海系とのつとり鯨とえはをめてハ彼小船
ハ船を下し退けけりあて突とあはる時クロボヲ海中お抱
けり思あさうらうるおせんおいあけ肉おせて皮をとらえたり

あぶらとらるるアメリカ船おさうくのよとを船は波お勢さうは
大船あがせよ二年のうあつめをさうワフ国といふおお出さ
まらとらう梅女のもの大船おのううりたるや異人うらうさ
りをもちさうりあはるるお食長なるお船主とせお一人
怒りたる船おし業あつたおはりおはつてつと異人へのち
ゆらり足おをそれと居らるおバとらる鯨とららららら
れと養ひおかへおこれおのからん腹うたさうらう足おを
ひ合おれバ目をさるるえ舟お船とらるるさうくのぶとら
おのの思ひいづれあらんおらびたりおと日と海の内肉あがり
たるさうし是とバとらと甲とわはらはるは舟の真中おえ
三つおの対しゆと捕決おえんおのさうらる小舟おさうの



無人場ひだりばにて
トラクロとらももを
食くふふの場



は国たたの時上へ山王小荒のむとたとのありその中ふたあるはあり
 是ふ事あるはくをぬ人日本にあとく薬攪又し申くさとの火
 そろり又ひつらレをらそは医一申来くせん業はるは
 業又の薬業用も又付く血てらるの多く又志をたるとの時
 長風呂桶のぶくるるをけふは火いふあち着人をもらふとれ
 既斗つてとく藥をさませるるま事の名をさといさし
 なる一ね船既ワラのむをたのとくちえ人の者を連けは四をたの
 各ブチエ工を船既の名はダブタチヨと長とく船既四をた人へら
 ばんごこの人れれをきふと申あく敷日のあるらんば
 いたえはは連来ると申はまげ人様との残をともらま
 又人の異へせれは其中小日本の實永流あり是ふゆにすれれ

日本へ入るべしと申ありとあるは船は
 花重海へもとく要らるるのあらふはちよ申あはくぬし
 此後不防りけると事あるはひはひはと申てたてて
 の後せいで一毎用はつらと申とて申方式をせんのも
 又たはありまは二日程一往來のあら日ぬり一とよと
 遺つ安事ありはは用ちる衆切り一久箇と申つたは
 ありはひは病あり一はのあらも日本へ入りと申其
 り薬攪つてと申事あり一長と申るは毎日この年
 して其のひんはさるるは

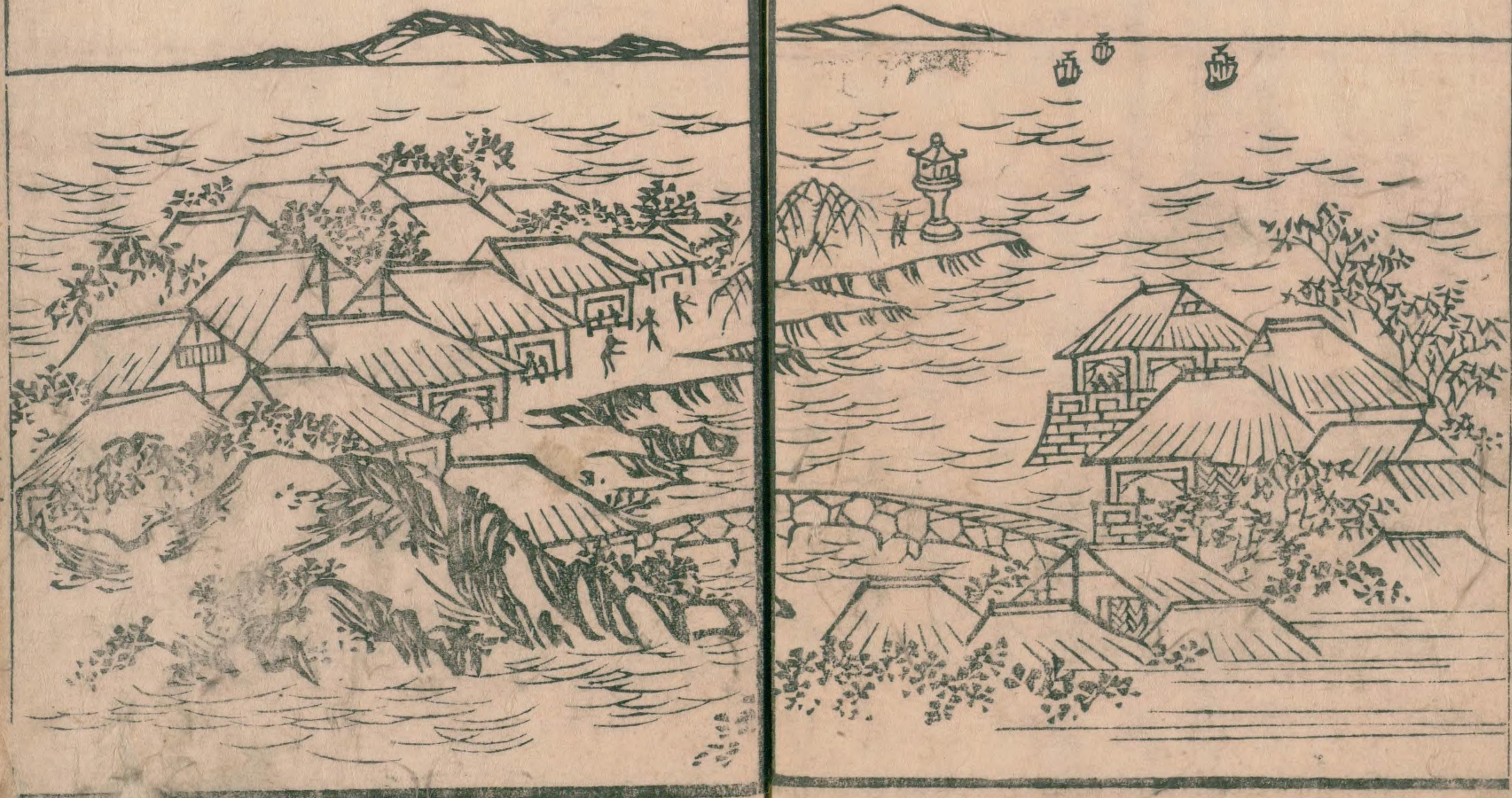


ひょうごま
去人考
アメリカの
海船を
まねく
圖



23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

ワフ玉の
湊之圖



862
1

天明二年壬寅三月十三日勢方白子神昌丸の船大黒の島水主候吉岡所へ
出帆し駿河の沖より吹流され同三年外七月廿日魯西亜の島鳥のアミ
シツカといふ地へ漂ひ諸島を徑曆魯西亜國の都出女帝ふすむ寛政四年
九月三日蝦夷の子モロといふ地を送りて同五年癸丑九月十八日富貴揚
御物見ふかしく上覧あり

○寛政五年奥加宮城郡寒凡沢濱若宮丸の組十六人同年十月廿七日
風を逢魯西亜國へ吹流され在六人の内左平津太夫茂平太十良文化ニ
年長崎表かたり角

右漂流譚巻好古の友人ふかろう賣買とらんト深く秘す

滄浪軒藏板



八景

国立国会図書館

タイトル『満次郎漂流記』 請求記号 862-1

ガラス使用